

2011. 2

区医だより

発行●浪速区医師会 編集●広報部

巻 頭 言

新入り御挨拶と私の中の 「敗戦記念日」のことなど

土 居 敏 一

(アシステンツァ桜川診療所 所長)

私は、此の度浪速区医師会員として、特養アシステンツァ桜川診療所に勤める事になりました者です。是迄は豊中市医師会員として44年間、Gynä.-Toko.の町医者として開業して居りました。これからは、診療科目の違いもあって、皆様には仕事の上で多大な御迷惑をお掛けする事になりはすまいかと甚だ心配をして居ります。どうか寛大な御心で御指導賜わります様心から念じて居ります。

然し乍ら、区の半周を道頓堀川が緩やかに流れる御地は、実は私が子供の頃、初めて覚えた流行歌で、「青い灯赤い灯…」(道頓堀行進曲)と歌われた懐かしい場所であり、斯うして人生最晩年に当って御地を勤め場所とさせて頂くのも、何かの深い因縁の故であったのかと新鮮な感動も又一入なのであります。(編集子より依頼を受けましたこの一文、初め新入りの挨拶文位に思って書き始めましたが、見本の「区医だより」を見せて貰っている中に、之は巻頭言に当る文章ではないかと気付き、こんな重い文章が私に書ける筈がないと忸怩たる思いとなり、「しまった、しまった、」と思ひ乍ら書いて居りますので、乱筆乱文の方も何卒御見逃し下さいます様、伏して願ひ上げて置きます。)

さて本年は、日米開戦より数えて70周年の

節目に当たると云う事で、今や数の少なくなって来た昭和初期年代の者の眼を通して見た私の中の日本に就いて少し書きしるしてみたいと思ひ付きました。

敗戦の日(日本人はカッコを付けて此の日を「終戦」と呼んでいる人が多いのですが、正しくは「敗戦」です。)私は生家でこの日を迎えました。私の家は四国の宇和島と申ししましても、愛媛と高知県境近くの小さな町ですが、米軍が土佐湾より上陸するかも知れないと云う情報もあって、町には海軍の兵士が配備されて居り、私の家には兵曹を名乗る男が住み込んで居りました。若し四国で戦闘が始まったら、此の男達の指揮下に入って、竹槍突撃でもする運命にあったのです。

当時私は旧制宇和島中学校の4年生で、大阪陸軍造兵廠に動員され、最初は新兵器―薊蕨玉を摺りつぶした糊で貼り合せて作る風船爆弾や、出来ていたら哀しい一人間の乗るロケット爆弾の試作(大阪湾を防衛する為、生駒山から打ち出す特攻兵器だったと後で聞きました。)などをやり、玉造近くの下味原宿舍では第1回大阪夜間大爆撃を目の当たりにしました。爆撃が多発する中、私共は工場を疎開して地下工場にすると云う命令で、三田市近郊の農家に分宿して山林を切り崩して整地する仕事に駆り出されました。(私共が開拓した山林は、今では地下工場ではなく、三田



市に誘致された工業団地になって居ります。)

私はここで病気の為田舎に帰り敗戦の日を迎えましたが、後の連中には、大阪に米軍が上陸すれば大阪湾防衛軍に駆り出されると言う噂が広まり、どうせ死ぬなら郷里で死のうと云う運動になり、運動が宇和島中学校始って以来戦時中のストライキと云う異常事態にまで発展し、引率の教師からは「憲兵隊を呼ぶぞ」と言う声まで出て大騒動になったとの事でした。

その郷里でも敗戦の日は大変で、ラジオで敗戦を知った私の家に止宿していた海軍兵曹は、腰から拳銃を抜いて何か喚きながら空に向って何発も発砲しました。この発射音は今も私の耳に焼きついて離れません。一瞬心は虚脱状となり之までの苦労は何であったのかと思いました。しかし人間と云うものは何とも逞しいものであり、兵曹が此の日の中に荷物をまとめて何処かへ立ち去って行った後、今後何が起るのか解らないと云う不安とは別に、私の脳はいち早く洗脳より開放され、矢張り生きていて良かったと云う思いが強く沸き起こって来たのも事実でした。

あの日から66年、良くも生き続けて来たものです。その間日本はどうなったのでしょうか。占領軍総司令官マッカーサーの頭の中には、日本をソヴィエトと主義上一線を画した戦争を起こさない国—理想的な社会主義国家を創ると云う理想があったと聞きましたが、之が本当ならマッカーサーの頭の中には、現在オバマが苦悩しているアメリカ資本主義の欠陥を正そうとする、立場は違っても同じ理想が隠されていたのかも知れません。(之から自分が創る日本を資本に毒されない世界の見本となる様な平和な国にしようとか…)

平和憲法、財閥の解体、第一次、第二次農地法の改正、旧紙幣の廃止と新円交換後の財産税、新しい教育(教科書は墨塗りで真黒になった。)戦犯、旧教育者の追放、新労働法、言論、思想、宗教の自由、婦人参政権(医療の社会化もここで生まれたものでした。)等多岐に亘る政策が次々と打ち出され、大方の民衆からは大拍手をもって受け入れられるも

のでした。しまいにはマッカーサー神社まで作ろうと云う声が出た程でした。これで日本の骨組みは全く変り、一挙に西欧並み、純度の高い民主国家に変貌したと思われました。しかし朝鮮戦争勃発で事態は一変します。中国の参戦により原子爆弾まで使って戦争を収めようとした、矢張り最後は軍人であったマッカーサーは、政治優先のトルーマン政権より解任となり、マッカーサー伝説は消滅。(神社も消滅。)日本人精神年令12才説と、「老兵は死なず、ただ消え行くのみ」の日本人好みの名科白と共に世紀の巨人、名優マッカーサーは去ります。日本は財閥復活、軍隊の様な自衛隊も出来ました。全国の家庭にはTVが入り自動車を乗り廻し、飽食して束の間の繁栄。

しかしその後再びビンボーとなったこの国では中小企業の倒壊、敗戦直後あれ程骨を折って農民が得た農地も荒れ果て、草茫茫となっているのに耕作を受継ぐ人はありません。国民生活の要である医療社会化の制度さえ破綻の恐れが無いとは云えません。世の中は常に移り変って行くものではありませんけれど、ではこの国は今後再びビンボーを取り返すべく戦争に巻き込まれて行くのでしょうか。やがて此の世を去る、戦争と共に歩んで大切な青春時代を失った者に取っては気がかりな事です。

ヨーロッパの国々は一歩先んじてヨーロッパ共同体EUを作りましたが、(それでも歴史は繰り返す恐れがあります。)もしアジアの覇権争いに火がつけば、世界は第3次世界大戦ともなり兼ねず、その折には大陸間で原子爆弾を投げ合う戦いとなりましょう。

戦争で死滅し僅かに残った人間達がやっと気付き、永久に戦争の無い地球国家を創るのでしょうか。それとも映画に出て来たりする謎の宇宙生命体の攻撃があるまで、地球人は結束出来ず戦い続けるおサルなののでしょうか。

この国の前途を祈りつつ、出来るものならもう70年位を生きて、此の国の将来を見て行き度いと思う此の頃なのであります。



理事会報告



◎平成22年度1月第1回定例理事会

日 時 平成23年1月14日〈金〉

午後2時～3時2分

場 所 浪速区医師会 会議室

協議事項

1. 後期定時総会の日程について

＜佐久間会長＞

3月16日〈水〉午後2時～開催したい。

協議の結果、了承。

2. 平成23年度大阪府看護事業功労者被表彰候補者の推薦方依頼について

＜佐久間会長＞

例年のとおり、府医より標記候補者の推薦方依頼があった。

協議の結果、会員に周知することとなった。

3. 郡市区等医師会「公益法人制度改革」事務連絡協議会(説明会)(2月9日〈水〉)の出席者について

＜佐久間会長＞
標記協議会の出席者を決めたい。開催場所は、府医、時間は午後2時である。

協議の結果、澤井副会長、事務長、濱崎が出席することとなった。

4. 事業計画について

＜有田副会長＞
資料にもとづき協議の結果、提案どおり了承。

5. 学術講演会の日程変更について

＜橋本理事＞

4月と5月の講演会の日程を次のように

変更したい。

4月23日〈土〉 → 16日〈土〉

5月21日〈土〉 → 28日〈土〉

協議の結果、了承。

6. その他

(1) 法人改定委員会の委員長について

本委員会の委員長を、佐久間会長から澤井副会長へ交代することとなった。

報告事項

1. 郡市区等医師会長協議会について

(12月24日〈金〉) ＜佐久間会長＞

次第は次のとおり。

▷開会

▷会長挨拶

▷連絡事項

(1) 学校欠席者サーベイランスシステム運営の件

(2) 「大阪府医療機関情報システム」(医療機能情報提供制度)にかかる調査協力依頼の件

(3) 妊婦健康診査公費負担制度の件

(4) 子宮頸がん等ワクチン接種緊急促進臨時特例交付金の件

(5) 地域支援事業における介護予防事業(生活機能評価)見直しの件

(6) 子ども予防接種週間実施の件

(7) ブロック女性医師支援ワーキンググループ編成状況等の件

(8) 「大阪府医師会の府民調査～大阪府民の考える地域医療のあり方に関する意識調査～」実施の件

(9) 日本糖尿病対策推進会議「糖尿病に関する尿中アルブミン実態調査」実施の件

(10) 1月度行事・会合日程の件

▷閉会

(詳細 略)

2. 大阪市医師会連合会委員会について

(12月20日〈月〉)について＜佐久間会長＞

次第は次のとおり。

▷連絡事項

- (1)大阪市介護認定審査会委員の推薦の件
- (2)大阪市要介護認定業務及び障害程度
区分認定業務における事務処理効率
化の周知の件
- (3)大阪市介護予防健診等（旧生活機能
評価健診）にかかる市内取扱医療機
関確認等の件
- (4)ヒブワクチン・小児用肺炎球菌ワク
チン・子宮頸がん予防(HPV)ワク
チン接種事業の件
- (5)大阪市の今後の結核対策の件

▷報告事項

- (1)大阪市介護認定審査会役員会（11月
17日）報告の件
- (2)第2回大阪市生活習慣病検診委員会
（11月26日）報告の件
- (3)大阪市立市民病院経営検討委員会（12
月1日）報告の件
- (4)平成23年度大阪市予算の編成に対す
る要望（12月6日）報告の件
- (5)大阪市地域包括支援センター運営協
議会・選定部会（12月9日）報告の件

▷協議事項

- (1)平成22年度人権研修会開催の件

▷会議日程

（詳細 略）

3. 府医新春互礼会について（1月5日〈水〉）
＜佐久間会長＞

次第は次のとおり。

▷開会

▷大阪府医師会長挨拶

▷来賓祝辞

▷祝宴

▷閉会

なお、当日の出席者数は約400名であった。

（詳細 略）

4. 第2回法人改定委員会について
（1月11日〈火〉） ＜佐久間会長＞
次第は次のとおり。

▷移行に伴う提出資料について

▷公益法人会計基準への移行について

▷その他

（詳細 略）

5. その他
なし。



◎平成22年度1月第2回定例理事会

日 時 平成23年1月28日〈金〉

午後8時～9時20分

場 所 浪速区医師会 会議室

協議事項

1. 浪速区三師会の開催日程について
＜佐久間会長＞
3月5日〈土〉としたい。

協議の結果、了承。

出席者は、会長、副会長、庶務、会計
とする。また、今回の三師会の幹事は、
薬剤師会であり、詳細については、後
日確認をすることとなった。

※ 後日、薬剤師会と調整した結果、開催
日が3月26日〈土〉に変更となった。

2. 浪速区役所、中部環境事業センター出張
所への産業医の推薦依頼について
＜佐久間会長＞
大阪市より標記事業所への産業医の推薦
依頼があった。

協議の結果、産業医担当の金田理事、
木田理事が産業医資格のある会員より
推薦することとなった。

3. 保健福祉センターの行う特定健診への出
務医師派遣について ＜佐久間会長＞

例年どおり、区保健福祉センターより医師派遣について依頼があった。

詳細は次のとおりである。

日程：平成23年 9月4日〈日〉
10月30日〈日〉
平成24年 2月11日〈土祝〉
3月4日〈日〉

場所：浪速区保健福祉センター

時間：9時15分～12時

出務医師：各日2名出務

協議の結果、会員に周知し、出務医師を募集することとなった。

4. 保健福祉センターの行う精神保健福祉業務への出務医師派遣について

＜佐久間会長＞

例年のとおり、標記業務への出務医師派遣依頼があった。

業務内容は、家族教室での講義3回、精神保健ボランティア講座での講師1回である。

昨年度の出務医師は、前理事の太田幹夫医師である。

協議の結果、太田幹夫医師に派遣医師の人選を依頼することとなった。

5. 今里休日急病診療所、中央急病診療所への出務医師について ＜原田理事＞
標記診療所への出務医師割当について資料のとおり案をまとめた。協議願いたい。

協議の結果、提案どおり了承。

▷今里休日急病診療所出務

日 程			時 間		出務医師名
平成23年	4月23日	土	準夜	15：00 ～ 22：00	山下 弘道 久保田泰弘
	5月3日	火	深夜	22：00 ～翌6：00	前田 泰久
	6月15日	水	深夜	22：00 ～翌6：00	稲岡 祥治
	7月23日	土	深夜	22：00 ～翌6：00	佐伯 裕司
	8月4日	木	深夜	22：00 ～翌6：00	笹岡 英明
	9月11日	日	準夜	17：00 ～ 22：00	西平 香代 中村 淳子

▷上半期中央急病診療所出務

日 程			出務医師名		時 間
平成23年	5月1日	日	竹中 裕昭	縄 嘉津記	10：00 ～ 17：00
	6月5日	日	入野 宏昭	川田 信哉	10：00 ～ 17：00
	8月28日	日	川合 秀治	川田 信哉	10：00 ～ 17：00
	10月2日	日	金田 高次	川田 信哉	10：00 ～ 17：00
	12月4日	日	篠原 嘉伸	本田 秀明	10：00 ～ 17：00
平成24年	1月1日	日	古川 雅人	有田 繁広	10：00 ～ 17：00
			藤吉 理夫		
	1月15日	日	菱川 秀夫	橋村 直隆	10：00 ～ 17：00

6. 区保健福祉センターが行う平成23年度乳幼児健康診査等への医師派遣について

＜川田理事＞

例年どおり、区保健福祉センターより標記健診等への医師の派遣依頼があった。

協議の結果、出務医師を募集することとなった。

7. 「大阪府医師会の府民調査～大阪府民の考える地域医療のあり方に関する意識調査～」への協力依頼について

＜徳田理事＞

このほど、標記調査が実施されることになった。本会関係の調査客体は12名（男女各6名）であるが、男女とも20代、30代、40代、50代、60代、70歳以上に区分され、各年代の客体数は各1名となっている。調査票は、これらの区分に該当する住民や患者に配付し、協力を依頼することになる。

協議の結果、役員が直接住民あるいは患者に調査票を配付し、協力を依頼することとなった。

※ 佐久間会長、澤井、有田、菱川 各副会長、
橋村、川田、徳田、久保田、木田、岡藤、
金田、中村 各理事各1名分。

8. 区医だよりの巻頭言の人選について

＜中村理事＞

標記について、なるべく多くの会員に投稿してもらえるよう各月の割り振りをしたい。

協議の結果、会長、各副会長、各病院については、年1回担当することとし、その他の月については、その都度依頼することとする。

9. その他

(1) 警察医について

このほど、木下為弘医師が平成23年3月31日をもって警察医の辞任の申し出があった。

協議の結果、警察医の辞任については了承。後任として、佐久間会長が就任することとなった。

報告事項

1. 郡市区等医師会長協議会について

（1月28日〈金〉） ＜佐久間会長＞

次第は次のとおり。

▷開会

▷会長挨拶

▷連絡事項

(1) 本会会費賦課徴収規程改正の件

(2) 平成23年度医療機関並びに勤務医「医師賠償責任保険」団体契約更新の件

(3) 2月度行事・会合日程の件

(4) 平成22年度（1月～3月）・平成23年度年間行事予定の件

▷協議

▷閉会

（詳細 略）

2. 大阪市内医師会救急医療担当理事連絡協議会について（1月20日〈木〉）＜原田理事＞

次第は次のとおり。

▷開会

▷挨拶

▷議事

(1) 大阪市急病診療 平成22年度診療実績等について

(2) 平成23年度上半期分中央急病診療所出務医師割当（案）について

(3) 大阪市内医師会における急病診療に関する会議等の開催状況について（依頼）

(4) その他

▷閉会

（詳細 略）

3. 地域ケア会議について（1月20日〈木〉）
＜橋村理事＞

次第は次のとおり。

- ▷ 随時地域ケア会議報告
- ▷ 今年度の地域ケア会議を振り返る
- ▷ 情報誌作成について
- ▷ 来年度の予定

（詳細 略）

4. 浪速区子育て支援専門部会事例検討会議について（12月16日〈木〉） ＜川田理事＞

次第は次のとおり。

- ▷ 事例検討
- ▷ その他

（詳細 略）

5. 新年互礼会について（1月15日〈土〉）

＜徳田理事＞

スイスホテル南海大阪 8 階「浪華の間」において、午後 6 時より開催した。
出席者は来賓14名、役員および正・副議長18名、一般会員24名、事務局 3 名、計 59 名であった。
熊田篤嗣衆議院議員、川合通夫府議会議員、森山禎久大阪市会議員、富岡朋治大阪市会議員、浅野宏子浪速区長より祝辞をいただいた。

（詳細 略）

6. 大阪府介護認定審査会合議体の長会議について（1月19日〈水〉） ＜徳田理事＞

次第は次のとおり。

- ▷ 介護保険制度の運営状況について
- ▷ 介護認定審査会における審査判定の適正化・平準化について

（詳細 略）

7. 「電子カルテやＣＲについて」のアンケート結果について ＜久保田理事＞

61件中40件より回答があった。

電子カルテを導入しているところは13件であった。導入していない医療機関の80%の回答が、今後も電子カルテ導入の予

定はないとのこと。また医療検査情報の共有化に関しては、賛成派が過半数あり、反対派のほとんどの理由は「データ漏洩の危惧」であった。

8. 税務講習会について（1月20日〈木〉）

＜木田理事＞

次の内容で講習が行われた。

- ▷ 所得税等の決算と申告の留意点
浪速税務署個人課税第一部門統括国税調査官 山下新氏
- ▷ 株式譲渡所得等の申告の留意点
浪速税務署個人課税第二部門統括国税調査官 日下光生氏

出席者は、本会19名、歯科医師会 7 名、薬剤師会 1 名の計27名であった。

（詳細 略）

9. 郡市区医師会医業経営担当理事連絡協議会について（1月26日〈水〉）＜木田理事＞

次第は次のとおり。

- ▷ 開会
- ▷ 挨拶
- ▷ 説明

(1) 「平成22年分の確定申告の留意点等について」

大阪国税局課税第 1 部個人課税課
整理第六係長 檜垣正敏氏

(2) 「平成22年分の確定申告」ならびに
中央情勢について

大阪府医師会理事 久禮文雄氏

- ▷ その他
- ▷ 閉会

（詳細 略）

10. その他

なし。

次回会議 平成23年 2 月18日〈金〉午後 8 時～

3 月度学術講演会の お知らせ

3 月の浪速区医師会講演会の内容は下記のとおりです。

多数の先生方の参加をお待ちいたします。

日時：平成23年 3 月19日〈土〉 午後 2 時～

場所：浪速区医師会 会議室

演題：「心房細動の新しい診療指針 その2」

講師：独立行政法人

国立循環器病研究センター

心臓血管内科

医長 相原 直彦 先生



浪速区医師会 活動の伝言板

3 月の各業務の出務予定は次のとおりです。
ご協力のほどよろしくお願いいたします。

三 歳 児 健 診

●保健福祉センター

3 月24日〈木〉 午後 1 時40分～ 3 時30分

眼 科 吉野 成泰

耳鼻科 落合 薫

B C G 接 種

●保健福祉センター

3 月17日〈木〉 午後 2 時～ 3 時30分

工藤俊次郎

北村 栄作

大阪市高齢者健康医療相談

●老人福祉センター 午後 2 時～ 4 時

3 月 1 日〈火〉 佐久間靖博

3 月 4 日〈金〉 山尾 信吾

3 月 8 日〈火〉 徳田 好勇

3 月11日〈金〉 山田 郁子

3 月15日〈火〉 川合 秀治

3 月18日〈金〉 中村 泰久

3 月22日〈火〉 川田 信哉

3 月25日〈金〉 本田 秀明

3 月29日〈火〉 有田 繁広

産業医健康相談窓口

●大丸デパート心斎橋店 8 F

3 月 2 日〈水〉 午後 2 時～午後 4 時

北村 栄作

●浪速区医師会

3 月 8 日〈火〉 午後 2 時～午後 4 時

北村 栄作

●大丸デパート心斎橋店 8 F

3月12日〈土〉 午後2時～午後4時
工藤俊次郎

特定健診

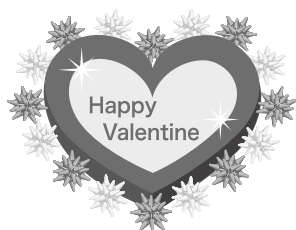
●保健福祉センター

3月6日〈日〉 午前9時15分～12時
工藤俊次郎
中山 博文

浪速区医師会クラブ活動案内

各クラブ活動は下記日程で行っております。
多数のみなさま方の参加をお待ちしております。
(ときに時間変更される場合もありますので、各部代表まで連絡をお願いいたします。)

囲碁部 毎月第1・3・5(土)
(川田信) pm5:00～



浪速区医師会 新年互礼会

庶務担当 徳田好勇

平成23年1月15日(土曜日) 午後6時から
スイスホテル南海大阪において、新年互礼会
が開催されました。

出席者は、ご来賓14名、会員42名、事務局
3名の計59名でした。佐久間会長の挨拶に始
まり、ご来賓からご祝辞をいただき、安部浪
速区薬剤師会長の乾杯のご発声で開演しまし
た。本年も洋食のフルコースメニューが用意
され、出席者の間で各テーブルを越えて会話
が弾み、予定の2時間がすぐに過ぎました。

最後に菱川副会長から閉会の挨拶があり、
お開きとなりました。







あとがき

S.K.

COPD（慢性閉塞性肺疾患）

COPDの診察ガイドラインは、1992年にカナダで作成されたのが発端となり、その後各学会で様々なガイドラインが作成された。我が国では1999年に日本呼吸器学会により上梓され2009年に第3版が発表され、我が国のCOPD診療に貢献するための指標を明確にし、COPDを如何に捉え、疾患の治療・管理をどのようにすべきなのか等について報告されている。今日ではCOPDは呼吸器に特化した疾患として限定的に捉えるのではなく、全身性疾患であるとの認識が一般的となりつつある。

COPDはタバコ煙を主とする有害物質を長期に吸入曝露することで生じた肺の炎症性疾患である。呼吸機能検査で正常に復すことのない気流閉塞を示す。気流閉塞は末梢気道病変と気腫性病変が様々な割合で複合的に作用することにより起こり、進行性である。臨床的には徐々に生じる体動時の呼吸困難や慢性の咳、痰を特徴とする。COPDは呼吸機能検査の異常が診断基準となっているように、呼吸生理学的に定義された疾患である。

COPDの有病率や死亡率は世界的に高いレベルにある。しかも今後数十年間は、人口の高齢化や高喫煙率の国々のために、世界の患者数が増加すると予測されている。世界各国のCOPDの有病率調査では、10%前後とする



報告が多い。厚生労働省の患者調査によれば、日本人のCOPD有病率は8.6%と推測され、世界の国々と同程度の高い有病率であることが明らかにされている。日本人の40歳以上の約530万人、70歳以上では約210万人がCOPDに罹患していると考えられる。

COPDの外因性危険因子はタバコ煙、大気汚染物質の吸入、職業性の粉塵や化学物質の曝露、呼吸器感染症などがある。タバコ煙はCOPDの最大の危険因子である。COPD患者の約90%には喫煙歴があり、COPDによる死亡率は喫煙者では、非喫煙者に比べて約10倍高い。COPDでは中枢気道、末梢気道、肺胞領域、肺血管に特有の構築変化がみられる。COPD患者では炎症が全身性に波及し、体重減少、筋力低下、心血管疾患などの全身併存症の原因になっている。

薬物療法の中心は気管支拡張薬で、抗コリン薬、 β_2 刺激薬、テオフィリン薬があるが、長時間作用性のものがよく使われる。治療効果が不十分な場合には、単剤を増量するよりも多剤併用を勧められる。それらの薬剤のいずれも作用機序が異なるため多剤併用による更なる改善効果が期待されるためである。吸入ステロイド薬は喘息と同様に気道炎症を抑制するために投与されるが、喘息ほどの効果は期待できない。COPDにおいては気管支拡張薬のみでは症状の改善は充分ではなく、増悪をくり返す重症例のみで吸入ステロイド薬を使用する。

酸素療法は動脈血酸素分圧(PaO_2)が60Torr未満、あるいは経皮的酸素飽和度(SpO_2)が90%未満の場合に適応となる。酸素療法の目的は生命を脅かす低酸素血症を是正し、組織の酸素化を維持することである。酸素流量は PaO_2 60Torr以上、あるいは SpO_2 90%以上になるように設定する。COPDの憎悪原因としては気道感染が最も重要である。その予防策として、ワクチンの接種が有効である。65歳以上に対するインフルエンザワクチンの接種は肺炎による入院や死亡率を減少させる。肺炎球菌ワクチンも65歳以上の高齢者や慢性呼吸器疾患を有する患者について接種が勧められている。



目次	ページ
巻頭言	
新入り御挨拶と私の中の「敗戦記念日」	
のことなど	土居 敏一 1
理事会報告（1月開催）	3
3月学術講演会のお知らせ	8
浪速区医師会活動の伝言板	8
浪速区医師会新年互礼会	9
あとがき	12

【区医だより】

発行者 佐久間靖博

編集者 中村泰久 橋村直隆

印刷所 株式会社 サビ

投稿規定

1. 原稿用紙使用、横書き
2. 原稿枚数：不問(但し分載あり)
3. 締切：5日(厳守)
4. 発行：25日前後